

埼玉代協と損保協会北関東支部

認知症で共催セミナー

サポーター養成講座兼ねる

埼玉代協は11月4日、損保協会北関東支部と共催で損保会社社員と代理店を対象にしたセミナーを開き、さいたま市大宮区西部圏域地域包括支援センター長の島田美由紀氏が「県内の高齢化の現状と特性、認知症への理解」をテーマに講義した。

認知症の人と接するときのためにも、認知症について正しい知識を持つ必要があるとした島田氏は、認知症の定義や認知症の人にみられる症状などについて説明。



講演する島田氏

「認知症の治療では早期受診と早期診断が非常に大切だ」と強調。また、認知症の予防策と

行動や心理症状は、本人の性格や生活環境、周囲の人の振る舞い方などにより様々で、「徘徊」「妄想」「幻覚」「不安・焦燥」「抑うつ」「食行動異常」「睡眠覚醒リズム障害」「介護抵抗」「暴言・暴力・攻撃性」といったものがあるとした。これらの症状のある認知症の人と接する際は総じて、「本人のプライドを傷つけないように対応することが重要だ」と述べた。

認知症の原因疾患のなかには、治療法があり、治るものもあるとした島田氏は、「認知症の治療では早期受診と早期診断が非常に大切だ」と強調。また、認知症の予防策として、規則正しい生活や食生活、適度な運動などにより、生活習慣病にならないことが大切だとした。

なお、今回の講義は埼玉県の「認知症サポーター養成講座」を兼ねており、講義終了者には認知症サポーター証と認知症サポーターの印である「オレンジリンク」が授与された。セミナーの受講者からは「認知症患者自身がつらいことを知った」「認知症にも様々な種類があることを知り、とても勉強になった」「身近な問題であると認識した」などの感想が寄せられた。